

地域の文化

特集 『文化の秋』



支える

文化

を
たち

11月3日は「文化の日」です。今年もつるせ西だより編集委員会では、日ごろこの地域の文化的な活動を支えてくださっているたくさんの方々の中から、3人の方にお話を伺いました。

桑原福治さん



愛すれば

人も花も応えてくれる

桑原さんは「江川フラワーバーの会」(注1)の発起人であり世話役です。これまで市議(2期)、農協理事などの要職を歴任され、今は農業の傍ら下鶴馬氷川神社氏子総代、市議OB会

代表や農業と福祉との連携支援など多忙な日々を過ごされている。

8月23日の朝、訪問しお話を伺った。

自宅裏の畑に立つビニールハウスの中には、1メートル四方の黒いトレーに8月種まきをした葉ポタンの苗が3センチほどに育っていた。9月、会員30人ほどでパンジー・ヒオラの苗をポットに移植し、11月ごろには江川プロムナードの花壇に植え付けられる。育てるのは、葉ポタン1600株、パンジー・ヒオラ4000株だという。花壇は素晴らしい彩りになり人様の目を惹いてくれる。花苗の約半分は、野菜直売所や祭りで販売して会の運営費に充てられていること。

桑原さんは福祉関連事業にも熱心に取り組み、30坪の農地を対象に福祉施設と提携し、軽



度な障がい者が働ける事業を始められるようだ。(實戸)

(注1) 江川フラワーバーの会は地域を花で飾りたいと27年前に発足した。会員50人。平成23年、シラコバト賞(県)、平成29年、市の表彰を受けている。

岡田一忠さん



芸術は人生を豊かにする

長年、水曜学級でご指導いただいた岡田先生を取材した。50号の大キャンパスに桜の大きを描画中のアトリエに通され、久し振りに気さくな対談ができた。

「岐阜県の出身です。子どものころから絵・読書が大好きだった。若い時代からハーモニカはやっていたが、15年ほど前にツルセ楽器店の紹介でアコースティックギターを購入し2年あまりの受講した。絵画は、芸大の予備校のようなところで助手をしながらデッサンを学んだ」とのこと。ごまには文筆投稿もされ、「趣味も多才だ。今、美術公募団体「双樹会」(注2)の理事長に就任中。以前に、市美術協会の会長も務められた。また、新型コロナウイルスの影響で閉校中の水曜学級絵画サークルの講師を10年間担当され、懇切丁寧な指導は大変好評だった。

「現在、市内で針ヶ谷・みずほ台の2カ所で開催しているが、西地域でも皆さんのご要望があれば喜んでお手伝いしたい」と呼び掛けられた。さらに、「習い事は教室だけでなく、自宅でも繰り返し勉強することが大切だ。



アトリエにて

(注2) 毎年東京都美術館で公募展を開催している全国組織の美術公募団体。

でなければ本当の趣味とは言えない」との戒めもいただく。(川上)

鎌倉佐弓さん



俳句の魔法にかけられて

私が俳句と出会ったのは埼玉大学時代。俳句サークルだった。自分が感じたこと、思ったことを十七字の俳句で表すってなんて楽しいんだらう。句会で、自分の句や仲間作品について話し合うのはなんておもしろいんだらう。俳句の楽しさに気づいた私は、大学を卒業すると同

時に俳句の結社「沖」に入ると、ますます俳句にのめりこんでいった。富士見市の野村東央留さんは、その「沖」で出会った先輩の一人である。その後、同じく俳人の夏石番矢と結婚し、富士見市で暮らすようになった。二人で俳句の雑誌「吟遊」を始めたのもここである。今では「吟遊」の印刷も、同じ富士見市内の梅田印刷株式会社にお願ひするようになった。一方で、世界に広がった俳句の窓口として、「NPO法人世界俳句協会」を立ち上げ、夏石を中心に活動している。そこでは私も会計の仕事にあたっている。

以上はご本人に寄稿していただいた文章ですが、伺ったところ富士見市で開催していた月例の句会「潤の会」は今では忙しくなりできなくなりました。(笠原)



「篠笛と琴〜俳句・短歌・詩の世界に遊ぶ」
2012年7月23日(月)
鶴瀬コミュニティセンターホールにて